

リスク管理態勢

〈 リスク管理強化への取り組み 〉

当金庫は、リスク管理を経営の最重要課題の一つと位置づけ、リスク管理態勢の整備、リスク管理の高度化へ向けて、取り組んでいます。

金融のグローバル化の進展や金融技術の革新などを背景に、金融機関を取り巻く状況は一段と多様化、複雑化しています。このような環境変化により、金融機関のリスク管理の重要性がより一層高まっています。

当金庫は、「さまざまなリスクを正しく把握し、金融情勢の変化に対応できるようリスクを適切に管理することにより、健全性の確保と収益性の向上を図る」ことを統合的リスク管理*1の基本的な考え方とし、リスク管理の強化・充実に取り組んでいます。

当金庫は、金融機関が抱える主要なリスクのうち、信用リスク、市場リスク、およびオペレーショナル・リスク*2の3つのリスクに対して資本配賦*3を行い、計測されたリスク量が資本の範囲内に収まっているかを確認することにより、自己資本の充実度を評価しています。

今後もリスク管理の高度化へ向けて、取り組んでいきます。

用語説明

- *1 統合的リスク管理とは、当金庫の直面するリスクに関して、自己資本比率の算定に含まれないリスク(与信集中リスク、銀行勘定の金利リスクなど)も含めて、それぞれのリスク・カテゴリごと(信用リスク、市場リスク、オペレーショナル・リスクなど)に評価したリスクを総体的に捉え、当金庫の経営体力(自己資本)と比較・対照することによって、自己管理型のリスク管理を行うことをいいます。
- *2 オペレーショナル・リスクとは、金融機関の業務の過程、従業員の活動若しくはシステムが不適切であることまたは外生的な事象により損失が発生しうる危険のことをいいます。
- *3 資本配賦とは、自己資本を割り当てることをいいます。

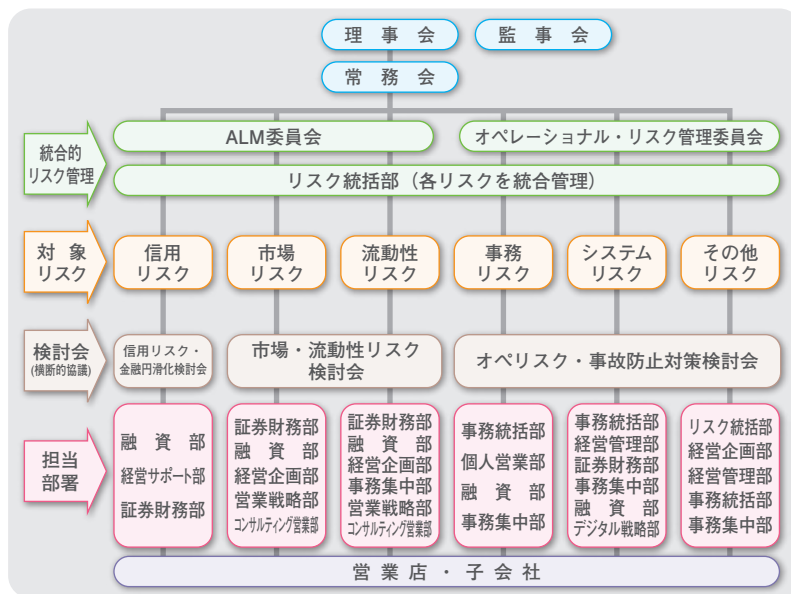
〈 リスク管理に係る組織体系図 〉

当金庫は、リスクごとに担当部署を定め、業務内容やリスクの規模・特性に応じた適切なリスク管理を行うこととしています。

また、各種リスクを統合的に管理する機関として、「ALM委員会」、「オペレーショナル・リスク管理委員会」、およびリスク統括部を設置しています。

「ALM委員会」では信用リスク、市場リスク、流動性リスクの、「オペレーショナル・リスク管理委員会」ではオペレーショナル・リスクの各リスクの管理状況について定期的に協議しています。

なお、重要な事項については、リスク管理を担当する部署より、随時、理事会に報告しています。



〈 ALM*4体制 〉

信用リスク、市場リスクおよび流動性リスクを統括して管理するとともに、資産・負債を総合的に管理するため、「ALM委員会」を設置し、多面的な分析・検討を行っています。

用語説明

- *4 ALMとは、Asset Liability Managementの頭文字をとったもので、資産と負債を総合的に管理するバランスシートのリスク管理手法のことをいいます。

サイバーセキュリティへの取り組み

当金庫では、サイバー攻撃に対するリスク管理を経営上の重要課題と位置づけ、サイバー攻撃を受けた場合に迅速な対応を組織横断的にとることを目的として、金庫内にCSIRT (Computer Security Incident Response Team) を設置しています。

お客さまがより安全にサービスをご利用いただけるよう、今後もセキュリティ対策に取り組んでいきます。